

「評価」を通じて
効果的な施策に育て、
浮いた予算で必要な政策に
さらなる健幸投資を！

人手不足の中でも 「健幸政策の**評価**」を 定着させるポイント

「評価」に
苦手意識を
お持ちのアナタに
届けます！

座長

大久保一郎（横浜市衛生研究所長）

久野譜也（筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センター長）

シン
ポジ
スト

● **スポーツ実施率の向上に向けた取組**
（社会保障費の評価とライフパフォーマンスの向上）

中村宇一・スポーツ庁健康スポーツ課長

● **スポーツを通じた健康づくりによる
社会保障費の効果検証のガイドラインの活用法**

田邊 解・筑波大学SWC政策開発研究センター准教授

● **介護予防事業等における施策評価のポイント**

近藤克則・JAGES理事/千葉大学予防医学センター特任教授

● **評価を活用した事業のスクラップ&ビルドの有効性**

塚尾晶子・つくばウェルネスリサーチ副社長（保健師）

● **見附市における健幸政策評価の全貌とその有効性**

伴内正美・新潟県見附市総務部長兼企画調整課長

スポーツ庁は、R5年度に地方公共団体における科学的根拠を前提とした施策立案・施策評価を目的として、「スポーツを通じた健康づくりによる社会保障費の効果検証のガイドライン」をまとめた。政策評価に関しては、行政機関が行う政策の評価に関する法律において、「①政策の特性に応じた合理的な手法を用い、できる限り定量的に把握する、②政策の特性に応じて学識経験を有する者の知見の活用を図る」と明記されているが、市町村レベルでは適切な政策評価が進んでいないのが現状である。そこで本セッションでは、多様な制約のある現場において現実的に必要な評価の実施方法、及びそれを行うことの政策上のメリットを明らかにし、多くの自治体等で活用されるきっかけとしたい。

日時:2024年**10月30日(水)** AM9:00~10:35(95分)

会場:札幌コンベンションセンター **第8会場206**